





辛卯冬發行

半日庵芳律編

此新選來浪發句集二編二札母

東京香月社花標

新選年浪發句集二編

下の巻

半日庵芳律選  
芙蓉庵文禮校  
佳峯園等裁閱

初秋

初秋や楓を光らす可憐様子 雨後 風  
 庵を 染む 秋や 葎の上 戦子、 風 泉  
 まる 秋を 光り 秋の 常 秋の 風、 里 山  
 初秋や 心毛 志ま 風り 秋、 岩代 蓮 史  
 三門 秋や 揺る 遠く 秋の 藝 伊後 二 調  
 初秋と あり 秋の 光り 秋の 光り、 九 如



夕されやふ年 初秋のむらみ風 肥前 喜玉  
 初秋や森見の里に 秋のむらみ風 豊前 未曉  
 水子傳を寝ある音に 秋のむらみ風 美山 美山  
 初秋とせむる 秋のむらみ風 美山 美山  
 と川 初秋とせむる 秋のむらみ風 美山 美山  
 秋も来く 秋のむらみ風 美山 美山  
 田を愛うして 秋のむらみ風 美山 美山  
 とつ 秋のむらみ風 美山 美山  
 もう 秋のむらみ風 美山 美山  
 初秋の目もさ 秋のむらみ風 美山 美山  
 とつ 秋のむらみ風 美山 美山  
 初秋やうは 秋のむらみ風 美山 美山

上毛 常陸 上毛 常陸 上毛 常陸 上毛 常陸 上毛 常陸 上毛 常陸

未 米 文 悟 常 花 芳 芒 美 美 未 喜  
 及 舟 禮 悟 居 兮 木 山 友 山 曉 玉

初秋や 室を 初秋のむらみ風 清 秋  
 秋立や 細くも 初秋のむらみ風 芳 秋

稲 毒

稲毒の 為に やり 山 産 羽後 弄 山  
 いまの 稲毒の 為に やり 山 産 月 静  
 稲毒や 毎 稲毒の 為に やり 山 産 以 孝  
 稲毒や 麻 稲毒の 為に やり 山 産 一 音  
 稲毒や 野 稲毒の 為に やり 山 産 常 陸 昇 月  
 稲毒や 野 稲毒の 為に やり 山 産 下 弦 弄 月  
 稲毒や 野 稲毒の 為に やり 山 産 近 江 映 肝 月  
 稲毒や 野 稲毒の 為に やり 山 産 美 濃 清 泉  
 稲毒や 野 稲毒の 為に やり 山 産 上 毛 我











別の灯傳々々龍籠の細工の如  
 山寺中 都の明燈る々々所々  
 信せ重なるも重なるらん如燈籠うれ  
 月前のあま重なるらん如の燈籠  
 家並のらん如 初らん如の燈籠  
 燈籠の如の細工の男うれ  
 ちきこれのらん如のらん如  
 新重なるらん如のらん如  
 燈籠の如の細工の男うれ  
 燈籠の如の細工の男うれ  
 燈籠の如の細工の男うれ  
 燈籠の如の細工の男うれ

豊前 二 洞  
 美作 美 未 曉  
 常陸 如 如 如  
 武蔵 如 如 如  
 東京 綿 子 華 風 籠 旌 山 曉  
 秀北 水 柳 子 華 風 籠 旌 山 曉

掛旗の如のらん如のらん如  
 自の重なるらん如のらん如  
 うれらん如のらん如のらん如  
 重なるらん如のらん如のらん如  
 らん如のらん如のらん如のらん如

源 菫  
 孝 高  
 益 高  
 真 松  
 芳 律

市

あまらん如のらん如のらん如  
 賞らん如のらん如のらん如  
 物持ぬらん如のらん如のらん如  
 市やらん如のらん如のらん如  
 市のらん如のらん如のらん如  
 市のらん如のらん如のらん如

塩 風  
 本 風  
 竹 吟  
 藝 外  
 物 我  
 難 濤



釣市ハ皆多しの御堂前 信濃の  
 香野多多とて之の市 碧山  
 さしものりた糶賣のせよ 貫山  
 志多とある世の煙多や多の市 周防 歳年  
 也てのらもさして多の市 豊前 蒼濱  
 多市の多の市 珠粉の房 似月  
 心車多のの盆の市 茨城 笑甫  
 灯ともして多の市 北華  
 名ともらぬ物の多の市 横濱 州洋  
 室の多の市 池尾  
 料市や露の多れき 真松  
 風多の多の市 芳律

刺鱈

刺鱈や心多のりたの 如風  
 さし鱈や款の勝の 二調  
 刺鱈や多のりたの 外吟  
 片鱈や多のりたの 竹吟  
 刺鱈の多のりたの 柳波  
 さし鱈や多のりたの 淇山  
 刺鱈の多のりたの 湖水  
 心刺鱈の多のりたの 芳律

規祭  
 勝のりたのりたのりたの 規祭  
 志多とある灯の多のりたのりたの 柳下







蘭

蘭の香やさし〜 花は見えしは見え  
露も 旭の 葉の 少くいふれ  
草のたに 存る 葉の 花 蘭の花  
甚く 音を 吹く 葉の 白ひは  
蘭の 香や 廊下 伝ひ する 結社  
以 義の 手い 人の 葉の 花  
高き 香の 風よ 蘭の花  
葉の 香や 月も ぼく 意の 先  
蘭の 香や 音を 吹く 雲琴  
葉の 香や 花の 古く 古く  
蘭の 香や 互に 温る 雨の 刺る

東京

香 古 歳 湛 吳 黙 晚 湖 桂 啞  
律 陀 松 年 園 水 史 翠 氷 月 風

芝蔴

芝蔴の 松の 下 凡 しく 凡 しく  
鈴魚や 望みの 物も 花の 心  
草半 花の 去 年 雨 降る 傍 地面  
朝 初 市 の 候 へ たり ぬ ち  
あまの 雨や 花の 裏 へ 日 表  
草ハ 花 後 へ たり ぬ ち  
草半 花 火 七 七 七 七 七  
鈴魚の 心 けて あり 音 如 照  
玉 酒 中 鈴魚 誰の 葉 進 出  
家 を 可 朝 初 物 鈴魚 好  
草ハ 咲 け せ ぬ 心 鈴魚

東京

湘後

千 雲 舟 陸 庫 多 風 廟 法 弄 啞  
敵 蕩 明 吟 文 我 好 凡 梧 山 風



朝初書 朝、多れ 川子水  
第の戸中 朝初恒る 夕日新  
幕中 朝初恒る 知中 咲  
朝初書 落きくも 落きくも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
幕中 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲

桔 風  
樂 二  
英 一  
其 山  
陽 如  
瑞 肝  
昇 月  
淇 風  
破 日  
露 影

幕中 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲  
朝初書 未くも 未くも 知中 咲

菊 山  
芝 文  
黃 史  
默 史  
二 初  
花 燈  
全 燈  
弥 六  
整 一  
芳 律  
文 禮

女郎花











蒲萄

夕月のさき〜〜〜と糖の子は蒲萄は 岩代 愛言  
 磁磑や蒲萄の味も〜の 葛  
 法也〜と定る月の款の少は〜也 蔞  
 翅板の上や蒲萄を料理煙  
 葉の子のせと持佛〜上蒲萄は 一  
 ぬる盆はぬれを〜つ〜る〜也 歳  
 花も〜も葉の花り〜き蒲萄は 著  
 横目さす棚の法や〜た〜〜 一  
 親の目小姑の色厚〜る蒲萄は 芳  
 子を抱て〜〜〜〜〜〜 棚  
 味のいい〜色〜〜〜〜〜〜蒲萄は 上  
岩

之と近〜蒲萄の味もい〜

南瓜

新市に〜〜〜〜〜〜 岩代 桃山  
 南瓜を〜〜〜〜〜〜 葛  
 一枚の南瓜は〜〜〜〜 桂  
 海島の世帯〜 上の〜 南瓜は 露  
 扱上〜〜〜〜〜〜 東浦寮は 難  
 葉の霜て露の〜〜〜〜 似  
 燈の子も〜〜〜〜〜〜 菊  
 初南瓜は〜〜〜〜〜〜 黙  
 葉も蔓の霜〜〜〜〜〜 山  
 南山や蔀〜〜〜〜〜〜 伊  
藤

十



撰りれ〜江のちりきき〜南風  
名毛形〜もあら〜所の南風  
極例の結〜〜あるあら〜  
縁法〜好〜ち〜南風好

編引

世〜〜あ〜あ〜あ〜編  
飯の空〜もあ〜編  
田畑〜もあ〜あ〜編  
蓬山〜もあ〜あ〜編  
罪法〜もあ〜あ〜編  
濱村〜もあ〜あ〜編  
澤山〜もあ〜あ〜編

葉

芝九晴里梧嘉唯 芳寸拈庫  
山如露山如峰風 緯芳華文

浦〜〜あ〜あ〜あ〜編  
月代〜もあ〜あ〜編  
川揚〜もあ〜あ〜編  
之〜もあ〜あ〜編  
風法〜もあ〜あ〜編  
豊〜もあ〜あ〜編  
純〜もあ〜あ〜編

秋風

秋風〜もあ〜あ〜編  
暮虫〜もあ〜あ〜編  
煙風〜もあ〜あ〜編  
入〜もあ〜あ〜編

以向嘉唯 芳枕膏玉悟感黙  
考菜峰風 緯石官桂信年史



旅人よあまのうらや 秋の風 高橋 里  
 秋風の吹く樹のうらや 秋の風 扇  
 松やよの吹くうらや 秋の風 桂 月  
 桶の輪を吹くうらや 秋の風 晴 月  
 旅人の袖のうらや 秋の風 善 哉  
 肥の舟の渡るうらや 秋の風 呉 宮  
 新塗の乾く白のうらや 秋の風 素 外  
 水邊の舟の渡るうらや 秋の風 二 納  
 秋風の吹くうらや 秋の風 未 曉  
 舟の吹くうらや 秋の風 湛 園  
 秋風の吹くうらや 秋の風 嘉 月  
 秋風の吹くうらや 秋の風 柳

旅人よあまのうらや 秋の風 一 英  
 秋風の吹くうらや 秋の風 親 子  
 秋風の吹くうらや 秋の風 笑 南  
 持節の舟の渡るうらや 秋の風 運 史  
 秋風の吹くうらや 秋の風 雲 冷  
 田畑のうらや 秋の風 如 風  
 吹くうらや 秋の風 言 乞  
 町へのうらや 秋の風 春 高  
 心と縁のうらや 秋の風 左 高  
 昔のうらや 秋の風 笠 舟  
 秋風の吹くうらや 秋の風 源 菟  
 秋風の吹くうらや 秋の風 江 春











ひさしやいそぎのきつねの  
桐山の 裾の 日の 暮の  
しんげいの やまの ぼけの くらの くらの  
桐の 葉の くらの くらの くらの  
ひさしの 桐の 葉の くらの くらの

秋蟬

鳴の 声の 秋の 蟬の  
秋の 蟬の 連の 声の  
秋の 蟬の 連の 声の  
秋の 蟬の 連の 声の  
秋の 蟬の 連の 声の

東京

拈 一 樂 古 芳  
社 友 木 松 律

採 未 晚 吳 湖  
音 曉 翠 羊 水

清の 鳴の 方の 秋の 蟬の  
啼の 止の 聲の 秋の 蟬の  
秋の 蟬の 連の 聲の  
秋の 蟬の 連の 聲の  
秋の 蟬の 連の 聲の

鳴子

竹 蓮 里 楮 蘭 以 芳  
吟 史 山 風 雨 孝 我 風

下



手を遊んで海を渡る田の写子  
早起の人如先男くちまのつら  
疾くして経る事ささむく写子  
言はれささむく書ふ山より  
年々伸てくれや写子  
引繩のまえへおれらるる  
旅人も引ておれらるる  
いへはらまの子の奥へ  
引夜中一始のまの  
夕風をきく一始のまの  
研一と新を海をく  
垢時と新を海をく

鳥 籠 以 康 蘇 木 落 花 枕 莖 花 本 落 以 康 蘇  
我 寫 史 官 不 外 廿 風 厩 考 哉 箕

下  
下

山知の日の暮  
水は清く油のく  
わらわらと子  
船中も  
男ゆれの  
新の風  
罪のな  
初め  
子の様  
隣田の  
あゝ海  
鳥を

晴 貫 清 眠 暮 二 九 晚 員 芝 未 菊  
自 山 泉 香 外 浦 如 架 山 山 院 溪

下  
下







箕野れの空鶴のきれさ〜米  
高臺の御製か〜さ〜今年米

草

土地の草の味  
あ〜〜移入の草の味  
江戸の草の味  
門川や草の味  
汁も草の味  
洗いの草の味  
観草の味  
草の味

春風  
芳律

月静  
法梧  
棋山  
梧風  
柳海  
芳居  
庫本  
歳年

草の子の味  
猪の味  
池の味  
草の味  
草の味  
草の味

雲子

為〜〜程の味  
疾〜〜程の味  
隣〜〜程の味  
音程の味

葉山  
池英  
芳律  
文禮

如風  
一鳥  
物我  
庫文



もよあさぬのさしを母のまゝに  
旅人の旅に〜のちやぬ〜の  
あ〜の〜の〜の〜の〜の  
さ〜の〜の信はし〜の〜の  
あ〜の〜のや〜の〜の〜の  
はた〜の〜の〜の〜の〜の  
あ〜の〜の〜の〜の〜の  
あ〜の〜の〜の〜の〜の  
は〜の〜の〜の〜の〜の  
は〜の〜の〜の〜の〜の  
あ〜の〜の〜の〜の〜の  
あ〜の〜の〜の〜の〜の

二 菊 祥 疾 晚 親 笑 如 眠 江 涼 者  
浦 松 水 累 子 甫 香 香 高

根はささくは〜の〜の〜の  
競れ〜の〜の〜の〜の〜の

蕃椒

焼てお〜の〜の〜の〜の  
羅ひ人のあ〜の〜の〜の  
小人好ふ似ぬ種〜の〜の  
沖植也〜の〜の〜の〜の  
阿き〜の〜の〜の〜の〜の  
恙〜の〜の〜の〜の〜の  
其色〜の〜の〜の〜の〜の  
世〜の〜の〜の〜の〜の  
い〜の〜の〜の〜の〜の

文 禮 芳 律 文 風 風 下 泉 竹 松 梅 庫 吳  
上 孫

下 註

下 註



照る年の上能もの子有るり  
暗くく減りく廣く蕃椒  
音園やまん信つてくか  
悉く傳色小むり有るり  
されとく有る程の序 蕃椒

線風

夕刻の隣りも信川 糸風ふれ  
布風吹風もゆきも家も  
家根も信子這少布糸風の蔓も  
能く伸了信くさく布風棚  
葉何れも之類のまき糸風吹  
未くもくはく物も糸風棚

東京 近江 信濃 河本

二 桐 一寸 一 棋 里 山  
綯 岳 岳 水 山 山 山  
外 史 的 禮 律 芳 岳 岳 山 山 山

糸の信も好地着るゆれ糸風  
牛の形も形れ地の布風うれ  
糸風もふも糸風吹く糸風  
是くもく約束のある糸風吹く  
棚もまきく繁む糸風吹く  
日の信も信く伸る布風吹  
葉もまきく蔓もゆれ糸風哉  
伸もまきぬ糸風の信の糸  
糸風吹く細もまき信風吹

厂朱紅

野うらまの日のまき信風吹  
降はくまのまき糸風吹

二 綯 史 史 的 禮 律 芳 岳 岳 山 山 山  
外 史 的 禮 律 芳 岳 岳 山 山 山



人形に映る 茜や 葉けり  
 元白書り 遠くさきりや 丁朱紅  
 番僧のちりやうらな 葉 鶴  
 見ると人形も傳ふ 丁朱紅  
 りも透る 裏書り 葉 鶴  
 赤いところ好作 縁は丁朱紅 丁朱紅  
 照りては多のよき由 葉 羅頭  
 大猫の中 能き 遠書 丁朱紅  
 風呂を巻く 袴 冠書り 丁朱紅  
 西の貝 能き 色のは 葉 鶴  
 いふふのも 深き ねせん 丁朱紅

色名

蘇山 未曉 淇園 如風 法儀 蓮史 葛美 扇風 湛山 舞箕 初雨  
 蘇山 未曉 淇園 如風 法儀 蓮史 葛美 扇風 湛山 舞箕 初雨  
 芳文 如風 淇園 未曉 似月 柳山 芳山 里山 蘇山

色名に 照る 好立回りの山 好赤  
 いふふや 照りて 多なる 日如  
 色名に 字も 能き 日如  
 以後も 字も 能き 日如  
 色名に 字も 能き 日如  
 いふふや 照る 好立回りの山 好赤  
 色名に 字も 能き 日如  
 以後も 字も 能き 日如  
 色名に 字も 能き 日如  
 いふふや 照る 好立回りの山 好赤

蘇山 未曉 淇園 如風 法儀 蓮史 葛美 扇風 湛山 舞箕 初雨  
 蘇山 未曉 淇園 如風 法儀 蓮史 葛美 扇風 湛山 舞箕 初雨



色もや風も冷もく 船の志  
いふもやまよふこゝろ 船中雨  
舟着きけりし 船中雨  
色もやあつ深むら 雑木山  
夕葉の空もく 船中雨  
いろもやまよふこゝろ 山の色  
風も世の色も 船中雨  
まよふも 船中雨  
まよふも 船中雨

鴟

東以唯 芳呈寿 桃真其 龍言  
光孝風 律高高 出松心 子吟

鴟啼や温泉橋のまよふ 山の志  
ちりりよと木のまよふ 船中雨  
鴟啼やあつ深むら 雑木山  
舟着きけりし 船中雨  
色もやあつ深むら 雑木山  
夕葉の空もく 船中雨  
いろもやまよふこゝろ 山の色  
風も世の色も 船中雨  
まよふも 船中雨  
まよふも 船中雨

一 香 桃 友 舟 友 舟 友  
玉 桂 舟 友 舟 友  
拈 華 舟 友 舟 友  
吳 言 舟 友 舟 友  
梅 志 舟 友 舟 友  
晴 霽 舟 友 舟 友  
湖 水 舟 友 舟 友  
淇 園 舟 友 舟 友  
菊 陰 舟 友 舟 友

下







小男の 結句 角力の 多たれ  
 其の 業を ことごとく 六紙 角力の  
 勝て ころ 業の 毒うらや 辻角力  
 立向 少時 笑 初書 とき ひと  
 能く いた せき とき 初や 角力 兩  
 角力 五勝 へ 大き ころ ころ とき  
 差れたる 意を 極うら 右 樸 少  
 争ひ 二 後 の 笑ひ や 辻 角力  
 差 ころ 多 殊 して 立や 園 相 撲  
 初 子 子 とき つ ころ 少 とき とき ひと  
 那 ころ 多 借 かけ 辻 へ 勝 角力  
 其 知 ころ 眼 ころ 多 ころ 辻 相 撲

世傳

芳 整 桐 小 松 寸 池 文 吾 笑 黙 呂  
 律 一 岳 舟 友 芳 存 禮 我 南 史 山

栗

為さう 栗や 終日 枝の 先  
 栗 高 音 一 時 ころ 山 如 玉  
 音の 一 栗の 飛 せ 葉 出 枝  
 多 ころ 栗や 月 日 ころ 枝 ころ とき  
 栗 ころ ころ 掉 ころ ころ 毎 子 ころ ころ  
 為 栗 や 枝 入 ころ 知 ころ 好 新 ころ 毎  
 雨 風 の外 音 あり ころ ころ ころ ころ  
 落 栗 や 枝 ころ ころ ころ せ 好 枝 ころ  
 蹴 ころ ころ ころ ころ ころ 栗 ころ 録  
 落 ころ ころ 枝 ころ ころ ころ 新 ころ ころ  
 落 栗 や 枝 ころ ころ ころ ころ ころ

東京

其 池 浪 清 九 湛 嘉 吳 情 玉 儿  
 尤 岸 行 儀 如 園 峰 草 吟 桂 堂



三ツ栗の落るるのありひとつた  
栗ハ皆落てき毎——葉也嵐

種茄子

見遠いもと落——カキ 種茄子  
其れとちり落り強きわて種もまひ  
石ニとちり落り種もまひ——子茄子  
種畑の杖——ある也 種茄子  
十分下——あを肥をせてた種もまひ  
その——さしあ魚子似たる 種茄子  
之落——の種もまひたる 種茄子  
古々甚と種もまひたる——の種もまひ  
其色も赤も 文也 子 種 茄子

文 芳  
禮 律

洪 園  
柳 下  
凡 泉  
芳 山  
葉 山  
清 新  
枯 華  
黙 史  
芳 律

蜜柑

市々蜜柑なるものけ 多や旅集て  
今着て船より上りて——ん  
落日向ちり落りたる 蜜柑は  
箱の釘ゆるも白のみうん  
葉うれて秋を急うぬ蜜柑哉 上毛  
磁礫の 味一入の蜜柑うぬ  
磁い中ハ其味程——ん  
きうくもさうまい色も紅蜜柑が  
けきうのふも蜜も——ん  
きうこれハ其味のとちり 蜜柑うぬ  
柑村も富貴な蜜柑さうな

唯 風  
向 菜  
本 鳳  
赤 兜  
白 柳  
雲 冷  
愛 雪  
莖 外  
梅 窓  
二 洞  
芳 律



間引菜

菜の弓引とてまてて逢ふに如く  
間引菜や芋の子汁にあき  
弓引や竹つた鶴子に如く  
間引菜の青も香結く用意に  
弓引菜を洗くは来たる家鴨  
間引菜や心をもきき 青 男  
弓引菜や結のこころを三何多  
間引菜やうつゝ一人たる籠の  
弓引菜や土の伝きる 与隣  
間引菜や側子の伝の 高  
弓引菜はも月を如く菜の伸縮

高橋

東京

月 里 九 美 儿 白 真 小 古 文 芳  
静 山 如 我 堂 人 松 舟 松 禮 律

鴉風

鴉風ささる垣面を  
鴉もささる藪を  
浮連繩のからりたる  
いらぬ時を舟の  
美のの葉のまき  
色舟の舟の藪のふえり  
蔓の男の垣の  
其名のふ似る  
眺るものも  
美のささる

羽後

唯 蘭 以 梅 如 露 吳 涼 芳 文  
風 雨 考 新 風 外 言 蒼 律 禮

新蕎麥

新蕎麥



新苔書や村村うらみの心使  
新苔書や川らぬ島あつちから  
新苔書や酒子酔ふてあつちから  
新苔書や隣り傳ひあつちから  
新苔書や道連白米一ゆれ先  
新苔書や酒ついたら膝のそと  
新苔書や旅の春うさあつちから  
新苔書と書一灯りや港口  
大和路の春傳ひあつちから  
新苔書や去年の旅屋あつちから  
新苔書や月を名をき山泊り  
新苔書や酒ついたら心使

枯物美黙似未空蓮暮本淇唯  
華我山史月曉海史白鳳山風

新苔書や美うらみの心使  
新苔書や春うらみの心使  
新苔書や酒ついたら心使  
新苔書や月を名をき山泊り  
新苔書や酒ついたら心使

朝寒

新苔書や美うらみの心使  
朝寒書や秋葉き  
新苔書や酒ついたら心使  
朝寒書や隣り傳ひあつちから  
朝寒書や地へ吹くやうな馬の息  
朝寒書や酒ついたら心使  
朝寒書や酒ついたら心使  
朝寒書や酒ついたら心使  
朝寒書や酒ついたら心使

一孝芳  
松琴  
白人  
寸芳  
桐岳  
笠舟  
舟明  
歳年

東京

新







朝きの煙り立ちりうらま舟  
如き中帯もあてぬさ付れ来

長夜

分別を思案もつうぬ新永これ  
永き新を知らぬ軒合向里  
いゝ新はまゝつひ舟舟より  
長き夜や嗷りのまゝ泊り船  
旅多舞い新は新永くまゆへく  
働了舞れハ新長もまきれ々々  
新の永一短のうらまゝ  
年暮の咽きうらまゝ  
夜永くま結中あけの鶴音から

於本

芳 呂  
律 音

唯 一 向 里 俱 祥 全 堂 言  
風 音 菜 山 園 松 音 冷

長き新中舞もなまれハ人のまゝ  
望りの道傍る 旅舞の 新永これ  
永は夜中耳をまきれぬ浪の音  
長き新中汗をまきれぬ水音  
永き新をまき 過たぬ 新永これ  
只新をまき 新永をまき  
新ハ永一物ハいゝまき  
永き新をまき 老の 新永これ  
夜の長一舞の 時分ハ 膳の音  
長き新の 舞もまき 毎の音  
何のまき 新中 舞もまき 詠祝  
永き夜中 舞もまき 糸車

二 眠 其 松 琴 池 清 菴 桐 呈 無 矢 踏  
油 音 山 琴 園 親 岸 舞 岳 水 浦 吟







鶺鴒の尾を中にとりて  
 せきれはの上をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿

高橋  
 月 清 扇 里 庫 几 喜 貫 眠 芝 晚 源  
 鶺 梧 風 山 文 堂 我 山 香 山 翠 蕙

鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿

文 禮  
 芳 緝

鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿  
 鶺鴒の尾をいふは糖阿

風 峰 白 下 柳 油 蘭 柳 竹 柳  
 風 峰 白 下 柳 油 蘭 柳 竹 柳















疾く舟中たのむらゝの火桶を  
 ありしやりの客少くも並ふ火桶は  
 ひとひさる多分おぼやかしき  
 片しうほつた断き火桶は  
 多指も自然のものの木桶  
 用ひしやりの多分おぼやかし  
 琴の仇とらして寄る塗火桶  
 是より堅く吟ん火桶の抱き心  
 切らぬ也

蒲園

尋 香 子 香 全 在 信 晴 北 文 芳  
 具 手 芳 文 北 文 芳  
 山 我 律 禮 華 齋 齋 齋 齋

ときをそと曇るを可しに蒲園の  
 ぬきぬき我の夢をうらみんば  
 船着て望む掛ひぬ候蒲園  
 疎醒もみしやりのおぼやかし  
 布園着て船の上り傷 ぬきぬき  
 川流もつて又着る蒲園の事  
 借て未きや戸はのせまぬらんば  
 着訓 候もぬらぬと 蒲園  
 終 粧 初 らぬや 尾 尾 尾  
 沖 鳴 の 声 子 答 へ け ゝ 尾 尾 尾  
 管 子 初 らぬ蒲園の事 ぬきぬき  
 庭 の 間 の 牛 の 声 ぬきぬき蒲園

竹 吟 芳 木 以 以 以 以 以 以 以 以  
 小 舟 眠 晚 似 有 有 有 有 有 有 有 有



終上より厚きものせぬ蒲團のれ  
蒲團着て居させたりやるの上  
き移すのあらなき——借ふん  
翌りせ又下さん布衣の肌さる

茶 喫

物より程働かず茶を喫ふ  
有の茶をいづいづ——茶喫  
甘多のうらぬ料理や茶を喫  
茶の物ある人の茶を喫茶喫  
山里に泊り茶を喫茶を喫  
旅多茶あり茶を喫茶を喫  
健やいな人の茶を喫茶を喫

其 茶 文 禮  
其 茶 文 禮

好 一 法 檀 魯 好  
好 一 法 檀 魯 好

分量の酒よりあるものなり  
降る物の音なりとつけた茶を喫  
意へさす月を候つて茶を喫  
茶を喫茶を喫茶を喫  
待つ候て精進茶を喫茶を喫  
深切り茶を喫茶を喫  
貝端の茶を分量より茶を喫

枯 柳

水酒より新の茶を喫  
枯くとして又みづのらぬ茶を喫  
風おれも茶を喫茶を喫  
岸より舟着て人なり茶を喫

静 二 湛 茶 紫 芳  
静 二 湛 茶 紫 芳

葛 茶 祥 路  
葛 茶 祥 路

茶 喫



新晴 天の青の如く 池の如く 枯木 枯木  
池の青の如く 池の如く 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木  
枯木 枯木 枯木 枯木 枯木 枯木

散紅葉  
衛士の装束 火の如く 赤の如く 紅葉  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く

池 美 音 芳 文 唯 本 左  
水 山 石 言 律 禮 風 風 我

落葉  
掃音 新の如く 赤の如く 紅葉  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く

落葉  
掃音 新の如く 赤の如く 紅葉  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く  
赤の如く 赤の如く 赤の如く 赤の如く

我 山 史 外 標 就 雨 年 竹 緯  
芝 黠 露 美 清 梅 吳 音 芳  
我 山 史 外 標 就 雨 年 竹 緯

落葉











長きりよ日ありぬ、さききほき、  
 花を晴日初そとれや、  
 寂庵のあもて、  
 今知まき、  
 川一重隔く、  
 花をさす日脚、  
 路のたひ、  
 葉くこれの、  
 等余、  
 未多、  
 葉くこれや、  
 雪とあて、

東京

芦城 箭浦 樹山 嵐年 清龍 如風 晴月 喜我 湛園 苔山 黙史 文禮

冬椿人の由行を、  
 芳律

水仙花

唐色、  
 水仙の、  
 垣廻、  
 葉の、  
 暮吟、  
 水仙の、  
 水仙の、  
 日、  
 陽、  
 水仙の、

未院 晚翠 美山 嘉外 吳言 千之 柁山 花扇 洋松 拈華



世を遊ばし 庵中ぬききり 名は花  
もくもく 八重の葉に 水は花

葱

附合を切りてお中 干根は汁  
葱のや 逆上るるの 白は白  
葱葉は 人の病を 白ひり  
切る能く 眼を 葱の白ひり  
玉葱の 葉を 基 葉  
葱切るも 断りて 酒の好  
葱折るも 下は 音も 好  
福も 香も 梅の 葉も 舟  
研りて 香も 好も 葱の 繩

池 岸  
芳 律

唯 風  
一 香

里 山  
暮 外

芳 木  
眠 香

歳 年  
晚 翠

其 山

葱の香も 喜ぶる 夢山 道へ 船  
湯病も 葱葉も 舟の 人  
葱の香も 狭りて 能く 港町

生海扇

苔も 生くさくさ 形も 生海扇  
廻極り 井つち 生海扇  
酒好く 自分も 生海扇  
生くさくさ 同く 生海扇  
生くさくさ 生海扇  
料も 猫も 生海扇  
物好く 生海扇  
生海扇

未 曉  
舟 的  
芳 律

溪 梧

洪 山  
芳 木

黙 丈  
芒 史

眠 山  
祥 香

如 風







燈の灯も燈 月夜中 写子音  
世々これいふ所なく 在好ちしり此  
啼暮る子音中 秋行さ守師  
形もよハ管 唱せし音 千音く此  
鼻もよ下る 奏あり 川音音  
さしこも音 浮き出れら 千音此  
旅もれし音 志音あり 写歌  
むらさき 二音下 啼音音  
形も音 湯も 奏音の 子音音此  
建つら好 本音の 寫音  
形も音 音下音 音音  
奏音音 音此 音的 音千音音此

下 豊  
下 木  
拈 吳 怪 吳 有 梧 榮 柳 桃 落 柳 木  
華 羊 怪 音 僕 栖 音 山 壺 屋 下 風

初音 月もも 奏ら 吟 唱音  
風結 二 音竹 音 浦音  
まも 海ら 好 本音の 音や 啼 歌  
松音 吹く 風音 あり 好 音  
立 奏 音 音 音 音 音 音 音 音

文 芳 池 可 策  
禮 緯 為 芳 山

曆 音

音 音 音 音 音 音 音 音 音 音  
飾り音 音 音 音 音 音 音 音 音  
跡の音 音 音 音 音 音 音 音 音  
人音の 音 音 音 音 音 音 音 音  
音 音 音 音 音 音 音 音 音 音  
音 音 音 音 音 音 音 音 音 音

一 清 笑 湛 葛 音  
音 新 南 園 美 我



橋越せし二人もきりぬ 曆うら  
皆あきし方うら未もやこもも黄

餅搗

すももや搗くはみられす 餅の音  
揉りれと借家信らきし 餅造  
餅搗やその聲しるはなり 地  
もち搗やゆし せうん向ふ前  
餅つきやまきまきあきし 人せ入  
せまう搗て心の度し 餅出ら  
まきまきあきし 隣り搗せはもちの音  
旅よりうらつらふ地し 餅の和し  
餅搗の湯音の懐し 心のすくはる

芳 弄  
律 峰

二 晚 梧 未 歇 芳 梅 風 喧  
油 翠 栖 曉 事 亦 刺 泉 風

不立ちまきしきのありまきまき 餅の音  
餅つきや縁のあきし 心とる前  
搗ねのまきまきや 餅出ら  
搗ねし せまう 餅の仕舞白  
餅搗やまきまきあきし 地  
栗餅や搗まらぬまきまき 比  
餅の粉を搗らぬまきまき 比

行年

行年やあきし借る毒の知恵  
えはくもは皆あきし 心とる前  
塗換る行年やあきし 富の音  
行年やあきし 新のまきまき

芳 文 清 拓 雲 枕 貫  
律 禮 齋 華 澄 菴 山

本 康 以 喧  
風 哉 孝 風







言その山光斗りに踏む園免  
法堂の扉附りいふ杖木  
想より顔をとせしむる一存  
嬌子如てそ扇上げのすく  
有ふれ顔を掩め葉子あはし  
月を映れと洗ふ花石  
裏の山たぬき多麻の糸る根子  
くちなるまきく下る屋連縄  
とけもすく暗窓活きくまわら  
長るやいさや並きさす  
ちる念を捨るより六もあゆ  
鳩もりのむく一沈るらく

律 洲 律 洲 律 洲 律 洲 律 洲 律 洲

系ゆかりとす習はする系系履  
根葉を不ぬ新門の彫物  
葉葉よ水紙さくくもさく乾き  
土用の入き西風子知る  
と宿ハハひら一面き田く  
いせ補一むら自悔きる答  
开つけふ湯甘の系姓を吹すほし  
悉き裡庵外のとくら地  
あひのけよおけ何らき金きい  
系系連の心合よ松坂  
月の汐沙と船のとも上り  
くねくうらほお付く冷込

洲 律 洲 律 洲 律 洲 律 洲 律 洲 律 洲

下集

下集







流水る等々 毎い碗懐  
黒糖の上もはもる花の香  
工々中 輝の菓ありて  
猶新のあもれはまの 喜ひ高  
硯の仕たらよきはう守石  
毒消せ守り別はてつみ  
のつひきまらぬ城の代番  
古狸の捕へんと 立かたり  
降せすある 夢の燭  
悪病ハリもは 疾き住居  
典侍の方より 度々の毎  
さうとうと愈る 病の神 活

律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文

細を解うれて 首伸き飛  
月影はれぬ 水のもる 監  
雲の勃け 芭蕉 破れる  
客の 松川 夢を 元 夢 夢  
摺の香のあは 括け好綿 纏  
裏の 扇の 縁のあつたき  
昔の 心 吟 女 夢 夢  
晴曇りあれと 襟の 花 日 知  
吹をさす 夢 夢 夢 夢 夢 夢

律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文 律 文



明治廿四年十二月廿四日印刷  
全 年 全 月 廿 八 日 出 版

東京南豊島郡戸塚村九下戸塚四百壹番地

編集者

大館兼太郎

全所

三百五拾五番地

印刷兼  
発行者

加藤 榮

發賣  
書林

東京市日本橋區通三丁目  
全 京橋區南傳馬三丁目

小林新兵衛  
吉川半七



